



## 二期目のスタートにあたって

広田まゆみ

ご依頼をいただき、何を書いたらよいかわからぬままに時がたち、ついにいただいた締め切りの日も、残り八分。慌てて事務所で原稿を書きはじめたところだ。「メール送信」という文明の利器に甘えて、明日の朝までには何とかお送りしようと思う。まったく恥ずかしながら、これまでの四年間も、こんな風にすべて行き当たりばったり、綱渡りで切り抜けてきたことを反省し、異業種交流会で出会った方のすすめで「マンガラ手帳」なるものを購入し、つい先ほどまで、一日一日の行動と長期的な目標とのつながりの大切さを意識した年間計画、月間計画、週間計画を立ててみたところだった。「これか

らの四年間はちよつと違うぞ」と、さあ、帰ろうかと思つたところで危うく締め切りに気がついた。このおおざっぱな性格は、簡単には変えられないと思うが、とにかく「今日が一番若い日」なのだから、せつかく購入したマンガラ手帳を有効に活用したいものだ。さて、今回、私は、無投票という形で白石区民のみなさんの審判を受けずに二期目のスタートを切らせていただくことになった。前回の選挙では、後援会のみなさんの大きなお力をいただき、いわば、ビギナーズラックともいえるべき三万三三八五票という大きな重みをおいただき当選させていただいた。無投票であつたことでこの票の重みと、

これまでの四年間の私の政治活動に対するさまざまなご批判・ご指摘なども含め、これまでよりも二倍の重みとして背負つて活動していかねばならないと覚悟している。よりしたたかにしなやかに、決して妥協はせずに、住民自治の実現のための機関としての道議会のあり方、機能強化を追求していきたい。加えて、3・11東北大震災を契機としての北海道のエネルギー供給のあり方の問題や、震災復興から学ぶ北海道の防災体制や地域再生のあり方など広域自治体の一翼を担う道議会に求められる役割は非常に大きく、これから前期二年の私の最重要課題もこの二つになるだろう。

加えて、地域アンケートやサロンや道政報告会での意見交換、そして北海道マニフェスト塾などでの外部評価を踏まえて、私は、四つの約束（別記ホームページ参照）を掲げ地域のみなさんにご支援をお願いしてきた。民主党中央政権のごたごたによつて地におちた感のある「マニフェスト」選挙だが、私にとつて、「マニフェスト」は、涙や土下座など旧来型の「お願いの選挙」



を、政策を訴える「約束の選挙」に変え、選挙を民主主義の実現する手段としてより機能強化するための大切なツールの一つであると考えている。さらに、支援者の陳情・要望を、個別に、ときには密室のなかでの課題解決を図るような旧来型の政治から、より透明性・公開性のある政治にしたいと思う。本来は議員を使わなくても、地域住民の提案や意見が政策決定や予算編成に反映できるような政治が理想なのだと思えるからだ。そのための一つの方法として、自身のマニフェストの一つに「議員の口利き・働きかけの公開条例」の制定にとりくむことを掲げている。もちろん、私自身にも人間の弱さがあるから、選挙のことをまったく考えないのかと言ったら嘘である。また、現状の行政の情報公開度・市民参加の状

況から考えれば、現実問題として、議員の口利き・働きかけの意義も否定はしない。とくに弱い立場におかれた人たちの声に光をあてていくのも政治の責任だからだ。しかし、問題は、その透明性、公開性だ。「癒着」と「パートナリシップ」の違いは、目的が明確で公開されているかどうか、その相手が交換可能であるかどうかが重要だと考える。

道議会においては、いわゆる道議会の「顧客」は、これまでずっと全道規模の各種団体などであった。これまでの右肩上がりでの幸せのための指標や解決策が均等な時代は、それらの団体に大きな貢献をしてきていた。だいたことに心から敬意を表するが、これからの厳しい新しい時代に向けて、道民の多様な声や思いを集約し、優先順位を判断するために、旧来と違う方法での意見集約のあり方、政策のチェックの方法などが求められている。とくに広大な大地を有する北海道においては、他府県にモデルは求められず、道議会自らが、道議会議員の選出の方法、市町村長の道政の政策決定への参加のあ

り方、さらには、地域経営にもともに責任を持ち、とりわけ、広域行政として防災や地域医療などにもリーダーシップをとるべき立場としての道議会議員の役割、市町村議会との関係のあり方なども改めて大きく問い直していかなければ、私は、道議会議員の存在意義はないのではないか。ただ、地域の声を代弁するだけでは、道民税をいただいている道民のみなさんに、私は申し訳ないと思っている。

言うまでもなく、議会は議員のものではない。全国の事例研究からどんなに立派な改革事例も、住民とともに築いたものでなければ、議会の機能強化につながることも学んできた。民主党北海道が選挙前に掲げた道民参加の議会改革フォーラムの開催を、議会基本条例に基づいたプロジェクトにつなげるのができたら幸いだ。いずれにしても厳しい四年間のスタートである。

※ 筆者ホームページ

<http://www.hinomaru.jp/>

八ひろた まゆみ・北海道議会議員